「近畿圏の目指す姿(070829 案)」

1. 歴史・文化に誇りとこだわりを持って本物を産み出す圏域

- 古くから都が置かれ、自然や地勢とあいまって、長い年月をかけて多様な文化を創造・継承・蓄積してきた日本文化(日本のアイデンティティ)の象徴圏域となる。
- 関西に残る多くの歴史・文化資産や多様性と厚みを兼ね備えた細やかな伝統工芸、生活、食、風土、眺めなどの本物の日本固有の文化を大切に保全し、次代に継承する。
- 質にこだわった細やかなまちづくり、ものづくり、ひとつづくりにより、技術、意匠、コンテンツ、ライフスタイルなどの新たな本物を創造する。
- 関西各地に残る固有の資源(伝統・文化・風景等)を核として、個性あふれる国際競争力の高い観光地域づくりを行い、関西全体として世界に名だたる国際観光圏域となる。

2. 首都圏とは異なる多様な価値が集積する日本のもう一つの中心核

- 関西は、人口、経済力、情報等において日本の中で首都圏に次ぐ集積を維持する。
- 個性の異なる都市・地域が競争・協調しつつ、多彩な文化、暮らし、産業が息づき、生活の豊かさを実現する、首都圏とは異なる日本のもう一つの中心核となる。
- 非常時には、首都機能のバックアップを担う。

3. アジアをリードする世界に冠たる交流・産業拠点

- 京阪神都市圏が、関西の産業を牽引し、活力の源であるエンジンとなる。
- これからの関西のエンジン産業として、次世代産業やクリエイティブ産業を位置づけ、これにより多様で層の厚いものづくり基盤産業や成長が期待される新産業を牽引する。
- アジアをはじめ世界の優秀な人材が関西を拠点に密度の高い交流を展開し、創造性に富んだ人や企業が活発に活動し、他地域にない独創性豊かなイノベーションを創出する圏域となる。

4. 人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進圏域

- 関西に息づく自然との共生を大切にする価値観を継承し、圏域全体で豊かな自然環境の保全・再生に積極的に取り組み、環境先進地域として存在感のある圏域となる。
- 人間活動の結果発生する廃棄物等について、圏域全体で効率的に3R(リデュース・リユース・リサイクル)を進める循環型社会を構築する。
- 太陽電池など高い技術を有する環境関連産業や研究機関の集積を活かし、環境技術やライフスタイル・まちづくり等を提案し、地球環境問題の解決という面で世界に貢献する。

5. 都市と自然の魅力を日常的に享受できる圏域

- 自然に近接して個性ある都市が発達した関西の特長を活かし、どこに住んでも自然的魅力と都市的魅力の双方を同時に享受でき、多様なライフスタイルを提供できる圏域となる。
- 大都市部は、それぞれの都市が持つ個性を生かしながら、生産流通その他の業務、教育、文化、娯楽、医療等において、圏域を代表するような高度な都市機能を発揮し、圏域の発展に積極的に貢献し、中心的役割を担う。
- 地方都市部は、中心市街地への都市機能の集約と周辺の地域を結ぶ公共交通ネットワークによる集約型都市構造を構築し、暮らしやすさや都市の持続的発展等を確保する。
- 農山漁村は、都市との地域間交流の促進や地域密着型産業等により、持続可能な地域社会を構築し、その多面的機能を発揮する。

6. 人々が自律して快適で豊かに暮らせる高福祉圏域

- 関西の全ての生活圏域で、医療・福祉・教育・防犯・消防・買い物・娯楽等の都市機能が確保され、地域コミュニティのある安心して暮らせる圏域を形成する。
- 多くの人々が集まる公共的な空間を中心に、ユニバーサルデザインの理念に基づき、高齢者、障害者など多様な人々が自由に社会に参画し、いきいきと暮らせる空間を形成する。
- 関西の全ての地域で、子育てに夢が持てる地域社会を形成する。

7. 産業・暮らしを支える災害に強い安心・安全圏域

- 関西全域が、東南海・南海地震や直下型などの地震、さらに台風、高潮、豪雨・豪雪等の自然災害に対して強く、安心して生活し、働ける圏域となる。
- 防災・減災分野における研究・教育と実務を兼ね備えた、国内およびアジア・太平洋地域に貢献する国際防災拠点を形成する。